

# 地域と関わる園の試み（3）

## －アーティストと協同することを考える②－

○栗原啓祥（認定こども園清心幼稚園） 中島佑太（認定こども園清心幼稚園）

### I. 問題と目的

これまでの研究で、アーティストと保育施設とが協同してきたことについて、アーティスト側の視点からその課題と可能性を検討したところ、協同のプロセスが、アーティストの意識を変容させ、それが保育活動とアーティスト活動の質の向上に寄与していることが示唆された。一方、前年度の本学会の発表で明らかとなったように、アーティストと保育実践者の協同プロセスには、違和感や疑問が起こることが指摘されており、その異質さとの対話が保育者の専門性を高めると考えられた<sup>1</sup>。保育者の熟達や成長、転機等に関わる研究はこれまでも多く行われており、本研究では、個別の保育実践者（以下、K保育者）が、異質な他者であるアーティストと協同するプロセスに伴う意識変容を描き出すことと、保育実践者がアーティストと協同する際の課題と可能性を検討することを目的とする。

### II. 方法

#### ○対象者の選定と概要

対象はK保育者（常勤15年・女性）で、現在、幼保連携型認定こども園清心幼稚園の主任保育教諭であり、アーティストと協同する以前の保育を実践し、その変化を経験している。

#### ○分析・方法

半構造化面接（約85分）を2017年12月に行った。主な質問は、①アーティストと協同する以前の保育実践、②アーティストと協同してからの保育実践、③現在の保育実践の内容と課題である。これらのインタビューデータを文字起こしし、SCAT（大谷2011）を用いてデータのストーリーライン、理論記述を作成し、そのデータからK保育者の意識変容について検証する。

### III. 結果と考察

以下の6点が指摘できる。

#### ①アーティストと協同した際の戸惑いや疑問が保育を見直すきっかけになる

アーティストと協同して活動するうちに、これまで前提にしてきた園の保育実践を問うことになった。より自由な発想や柔軟な見方、方法に、何をどうするといのか戸惑いつつ、これまで以上に幼児の遊ぶ姿を丁寧に見ながら、一人一人の幼児にどんな力が備わってきているのか考えるようになった。

#### ②モノ・物事に疑問を持つことが習慣化する

アーティストのモノの見方や柔軟すぎる考え方、発想に対して、K保育者が時間を要しながら向き合っていく中で、身の回りにあるモノの見方やその都度起こる事象について、豊かに捉えようとする意識が生まれた。

マイナスなこともプラスに変わっていくことを見つけられると、日常生活も実際が変わってくると考えるようになった。

#### ③同僚と不安を解消し、自分の新たな一面に気づく

K保育者なりに考えたことや思いを同僚と繰り返し情報交換し、共有するようになった。その結果、幼児たちの姿を受け止めつつ、幼児がたくさん迷って自ら考えたり感じたり経験できたりするような保育を実践したり、同時に保護者にもスムーズにいかないことを共有して幼児の育ちを支えるようになった。また、自分自身が多様に起こるハプニングを面白がったり、好きだったりすることに気がついた。

#### ④視覚化しにくい保育を共有する困難さが意識の変容を加速させる

園内で柔軟な保育が浸透し始める一方、一部の保護者にとっては分かりにくさを伴うことが起こった。K保育者は、保護者に状況説明を試みたが、相手に納得してもらえないような言葉で伝えることの難しさに力量不足を感じた。そのことが、より自分の言葉で保育が語れるようになることを目指す意識が生じ、研修会等に参加する際の意欲向上など、積極的な学習機会が増えた。その結果、自らの言葉で保育を語り、言葉に責任を持って伝えられるようになったことを自覚し、保育への自信向上に繋がった。

#### ⑤幼児が大人になった時の未来を描くようになる

目の前の子どもだけでなく、その子どもの将来に必要な力を想像して目の前の保育を考えるようになった。

#### ⑥前提を疑った協同が協同の質を向上させる

協同するアーティストのワークショップや活動が、面白いだらうという前提になるのではなく、面白く感じられない時もある。アーティストにその感想や考えを伝えることで、保育者の期待と感覚のズレを確認するようになった。その結果、新たな対話が生まれ、結果的にアーティストとの協同の質を問うことになった。

### IV. まとめと課題

保育実践者は異質であるアーティストと幼児の協同的な活動に対して、楽しみながらも葛藤と困難さの連続を抱え続けていた。楽しみと葛藤の連続の中で、保育実践者としての専門性を問いながら、幼児の遊びの多様性の保証に接続していくことがわかった。一方で、アーティストがいるリスクをどのように学びの質向上に活用するのかを検討する必要がある。

1 栗原啓祥・中島佑太（2017）地域と関わる園の試み（2）-アーティストと対話する保育実践に着目して-、日本保育学会第70回大会要旨集、1229